

# 編 集 後 記

教育情報8号から、版を縮少しました  
が(財政上の理由が主)会員の方々か  
ら、「研究所の顔である機関誌として  
は、少々貧弱である。もっと充実をし  
てほしい」との声々……。

あらゆる可能性を追求する当研究所  
の精神に学び、努力すること一ヶ月。  
今回からその成果が出てきたのでは  
ないかと考えておりますが、いかがで  
しょうか。ご意見、ご批判をお寄せく  
ださい。

9号から連載が始まった新潟県の  
「学閥」問題は、長い間の本県の「ガ  
ン」です。その支配の実態は、調査す  
るたびに驚きと同時に、激しい憤りを  
覚えました。県民総ぐるみで、「学閥」  
支配の教育を真に子ども、親、教師、  
県民の教育へと変えていかねばと決意  
しているところです。

「学閥」研究会の研究成果が、今か

ら楽しみです。私もその一員として頑  
張ります。

「学閥」に関する情報も、どしどし  
研究所へお寄せください。貴重な資料  
ご意見として研究活動に生かしてい  
きたいと考えております。(佐藤)

「教育情報」の発行がいつも計画よ  
り遅れ遅れになってしまします。編集  
部の不手際もありますが、会員にお願  
いした原稿が期日までに集まらない事  
も原因になっていきます。期日までに提  
出してください。原稿の中には、発行  
日が遅れることで、文章上表現上、又  
は内容的にも書き替えなくてはならな  
いものがでてきたりします。

研究所・会員の研究成果、活動内容  
をみなさんに伝える手段としては「情  
報」「通信」の二つです。従ってこの  
二つが会員と研究所・会員同志を結ぶ  
要です。もっと大きく言うなら、新潟  
県における教育統一戦線の要とも考え  
ています。

「情報」の質を更に向上させるため  
には、会員の強力な協力の力が必要で  
す。研究所からの「呼びかけ」「訴え」  
には積極的に応えていただきたいと思  
います。「情報」の紙数削減は止む得  
ない措置だったとしてもやはり誤りで  
した。

もっともみなさんに実状を率直  
に訴え、財政的基礎を確立する努力を  
していきたくと思っています。

研究所事務局・編集委員会の目で県  
内の動きをトータルに見ていきたくと  
努力はしているのですが、必ずしも細  
かな点まで見えるわけではありません。  
会員から研究所へのルートを大きく  
開けてください。(小熊)